

将来の高齢者像と社会参加促進策に関する企画立案等業務委託

本業務の目的

国内外の先行事例や専門家の知見をふまえ、東京都の将来の高齢者の社会参加に関するニーズを明確にし、中長期的に有効な社会参加促進策を企画立案

業務の実施手順

1. 2021年の高齢者の実態把握調査

2. 2020年のペルソナ（仮案）の作成

3. PEST分析

4. 2040年のペルソナ作成

※ 1 現在の高齢者の社会参加に係る課題・ニーズに加えて、PEST分析の結果や有識者インタビューの結果をふまえて、2040年への影響を考慮

※ 2 社会参加促進策の実施前の姿（課題・ニーズ）に加えて、社会参加促進策実施後の姿も作成

5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

1. 2021年の高齢者の実態把握調査

- 詳細な高齢者の社会参加の実態や課題・ニーズを把握するために、都内在住の40歳以上の男女を対象にウェブアンケート調査を実施。
- 40代、50代、60代、70代の4区分についてそれぞれ500サンプル、80代以上は370サンプル。
- 2021年1月中旬に実施

<基本情報>

◆暮らし向きの意識

- 「普通」が全体の半数を占める一方、「大変苦しい」+「やや苦しい」、「大変ゆとりがある」+「ややゆとりがある」がそれぞれ2～3割程度となっている。

◆外出手段

- いずれの年代も「徒歩」の割合が8割程度で最も大きく、次いで「公共交通機関」が5割程度である点は同様。
- 年代が上がると「公共交通機関」の利用率がやや上がる傾向がある（40代49.2%⇒70代56.5%）

◆外出・居場所

- いずれの年代でも「ほとんど外出しない」方が2～3割程度存在。
- 「趣味の集まりや稽古の場」、「フィットネスクラブ」等、他者との交流の発生が想定される居場所の利用率は全般的に女性の方が高い傾向がみられた。

◆日常生活に関する情報源

- 「テレビ・ラジオ」を情報源とする割合が9割強と最も大きいですが、70代以上においても「インターネット、携帯、スマートフォン」を情報源とする割合は8割を超えている。

1. 2021年の高齢者の実態把握調査

<就労の状況>

◆就労の有無・就労理由

- 60代の約58%、70代の約30%、80代以上の14%は何らかの収入を伴う仕事をしている。
- 年代が上がるにつれて、「収入を得たいから」の割合は低下傾向にあり、健康や自己実現等のための仕事をしている割合が増加する。
- 男女とも生涯現役で就労を継続したいとの意向を有する方が3割程度存在。
- 就労意向を有しているものの、就労できていない方が全体の26.3%程度存在。

◆就労に関して期待する支援

- 「情報提供」、「マッチング」、「体調や不安があっても就労できる環境整備」はいずれの年代も3割を超えたニーズが確認された。

<ボランティアの状況>

◆ボランティアの実施状況・実施意向

- 60代以上では、「参加している」又は「参加していないが、機会があれば参加したい」が概ね5割程度。

◆ボランティアに関して期待する支援

- いずれの年代でも「自分の希望と合致する情報提供」、「体調や体力に不安があっても活動できる環境の整備」を期待。

<趣味活動の状況>

◆地域等で活動している団体や組織への参加状況

- 70代以上では「町内会・自治会」、「趣味のサークル・団体」への加入率が3割前後となっている。
- 「町内会・自治会」、「趣味のサークル・団体」は「機会があれば参加したい」を含めると70代以上の6～7割程度を占める。

◆地域等で活動している団体や組織に参加する際に期待する支援

- 「自分の希望と合致する情報提供」、「体調や体力に不安があっても活動できる環境の整備」を期待。（ボランティアと同様）

1. 2021年の高齢者の実態把握調査

<行政の取組等に関する認知・活用状況>

◆認知状況、利用状況、利用意向

- 認知率が最も高いのは「フリーパスや各種運賃割引制度」で48.0%となっている。
- 利用率、利用意向のいずれも「フリーパスや各種運賃割引制度」が最も高い。

<将来の意向>

◆高齢期の過ごし方の希望

- 「とても興味がある」又は「興味はある」の割合が最も大きいのは、「趣味を仕事に活かす生活」と「趣味を通じて社会参加を楽しむ」で41.2%となっている。

◆移動支援

- 「ドア・ツー・ドアで移動可能なタクシーのような移動支援」が51.5%で最も割合が大きく、次いで、「地域内をきめ細かく周遊するバスのような移動支援」が40.4%となっている。

◆社会参加に活用したいデジタル技術

- 70代以上においてもオンラインツール活用意向は比較的高く、「オンラインではなく、対面での社会参加活動をしたい」との意向は3割未満となっている（80代以上では2割未満）。

◆デジタル技術を活用した社会参加への支援

- 「デジタル機器に詳しくなくても使いやすいような機器の工夫やガイドライン等が整備されること」、「自宅の通信環境を整えるための経済的支援（補助金等）」、「使用する端末等の機器を購入するための支援」を期待する意見の割合が比較的大きい。

2. 2020年のペルソナ（仮案）の作成

- 実態把握調査の結果を踏まえ、及び、東京都や総務省の公開している調査結果（※）を基に、多様な高齢者像をいくつかのタイプに分け、「2020年のペルソナ（仮案）」を作成した。
（※）東京都「東京都世帯数の予測」、総務省「住宅・土地統計調査」
- 「基本属性」については、基本的な情報として、性別、年齢、世帯構成、主な居場所、経済状態、日常の移動手段や交通の利便性、情報収集の主な手段についても項目を設定した。
- 「社会参加に係る属性」については、ウェブアンケート調査で明らかになった高齢期の社会参加の段階に応じたニーズ・課題について、それぞれの「基本属性」に応じた内容に編集し、「高齢期の社会参加を充実させる上での課題・ニーズ」として記載した。

	社会参加の段階	活動範囲の広い段階	近場での活動が中心の段階	在宅での活動が中心の段階
基本属性	ペルソナタイトル			
	性別			
	年齢			
	世帯構成			
	主な居場所			
	経済状態			
	心身機能の状態			
	フレイル・要介護の状態の場合の詳細			
	日常の移動手段			
	交通の利便性			
社会参加に係る属性	情報収集の主な手段			
	高齢期の社会参加を充実させる上での課題・ニーズ			

○ 以下の視点で、社会参加に係る高齢者の基本属性を検討

- 基本的な情報 : 性別、年齢、世帯構成、主な居場所、経済状態
- 心身の状態 : 心身機能の状態、フレイル・要介護の状態の場合の詳細
- 社会参加活動への参加に影響を及ぼす移動の状況 : 日常の移動手段、交通の利便性
- 社会参加のための情報収集の程度と方法 : 情報収集の主な手段

2. 2020年のペルソナ（仮案）の作成

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
ペルソナを一言で表すコピー	地域での活動に参加することを検討中の元気シニア男性	家族と過ごす時間中心で、社会参加活動はしていないシニア女性	ボランティア活動に関心のある元気シニア女性	就労したいが年齢制限が壁となっているシニア男性	できる範囲での就労をしたいシニア女性	社会参加活動にあまり関心のないシニア男性	体力が衰えても趣味の活動を続けたいフレイルシニア女性	車を手放し移動支援が必要になったフレイルシニア男性	一人での外出は難しいが、地域での活動を続けたい要支援シニア男性	一人暮らしのため、外出時の付き添い支援が必要な要介護シニア女性
性別	男性	女性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	男性	女性
年齢	65歳	67歳	68歳	70歳	73歳	74歳	78歳	80歳	84歳	87歳
世帯構成	夫婦・子と同居	夫婦	単身	単身	単身	単身	夫、子、孫と同居	夫婦	夫婦	単身
主な居場所	家	家	家、フィットネスクラブ、趣味の集まりや稽古の場	家	家、図書館	家、図書館	家、趣味の集まりや稽古の場	家、趣味の集まりや稽古の場	家、デイサービス・デイケア	家、老人クラブ・ふれあいサロン
経済状態				厳しい	厳しい					
心身機能の状態	健康	健康	健康	健康	健康	健康	プレフレイル	フレイル	要支援	要介護1～2
フレイル・要介護等状態の場合の詳細	—	—	—	—	—	—	ひざや腰に痛みあり。長距離の歩行が徐々に辛くなってきている。	ひざや腰に痛みあり。定期的な運動はしておらず、筋力の低下を感じている。普段の生活の中でも、疲労感を感じるようになってきた。	妻からの勧めもあり、週1回は半日型のデイサービスを利用	軽度の認知症。週数回の訪問介護で何とか日常生活は継続できている。
日常の移動手段	買物や外出時には車を運転 特に不都合無し	電車を中心に、バスも時々利用 特に不都合無し	電車を中心に、バスも時々利用 特に不都合無し 70歳になったので、シルバーパス取得	電車を中心に、バスも時々利用 特に不都合無し	電車を主に利用している。駅から離れた場所へ行く時はバス利用 シルバーパスを大いに活用	電車を中心に、バスも時々利用 公共交通機関を利用する機会は限られるのでシルバーパスは利用していない	買物や病院に行く時はバスが頼り。バスの本数が少ないのが悩み シルバーパスを大いに活用	電車を中心に、バスも時々利用 駅やバスの停留所から長時間歩くのはしんどいと感じる シルバーパスを活用している	外出時はバスが頼りだが、最近は出歩く機会が減った 買物等は妻に任せている シルバーパスはめったに使っていない	外出時は電車やバスが頼りだが、最近は外出の機会が減った シルバーパスはめったに使っていない
交通の利便性	自宅は最寄駅から徒歩10分、バス路線豊富で交通至便	自宅は最寄駅から徒歩15分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩5分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩10分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩5分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩10分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩30分・自転車で10分、バス路線少ない	自宅は最寄駅から徒歩20分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩15分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩10分、近隣にバス路線あり
情報収集の主な手段	テレビ・ラジオ、新聞、家族、チラシ、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、新聞、家族、チラシ、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、新聞、自治体広報誌、チラシ、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、チラシ、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、自治体広報誌、チラシ、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、自治体広報誌、チラシ、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、新聞、家族、チラシ	テレビ・ラジオ、新聞、家族、自治体広報誌、インターネット・スマートフォン	テレビ・ラジオ、新聞、家族、自治体広報誌、チラシ	テレビ・ラジオ、チラシ
高齢期の社会参加を充実させるうえでの課題・ニーズ	退職後時間ができるので、町内会の役員を引き受けようか思っている。話を聞くとずいぶんアナログなようで、会社勤めの頃とギャップを感じる。区の生涯学習講座にも興味がある。ただ、どんな雰囲気が集まりか、事前に確認してから入りたい。	親の介護が終わり、娘に頼まれると孫の世話をすることはあるが、基本的には夫婦二人の生活。静かな生活でよいが、もう少し家族以外との関りがあつた方が張り合いも出るかもしれないと思いつつ、家事をしながらゆったりと過ごしていると時間が過ぎて行き、特に何もしていない。	年上の知り合いを見ていても、年齢を重ねると色々な支え合いや手助けが必要だと思う。体が動くうちは、何か人の役に立つことをしておきたい。認知症高齢者との接し方など、少し勉強してから、ボランティア活動ができないだろうか。	暮らし向きが苦しく、就労したい。これまでの経験を活かした仕事につきたい。ただ、体力・体調に不安があるので、無理なくできるものがよい。	生活のため、また自分の張り合いのためにも働きたい。ただ、体力・体調に不安があるので、無理なくできるものがよい。	勤め先を退職してからは、特にこれといったことはしていない。自治会のイベントに参加したこともあるが、継続して特定のコミュニティに所属している訳ではない。散歩をしたり、図書館に行ったりしてマイペースに暮らしている。	体調や体力に不安があっても、これまで続けてきた趣味のサークルを続けたい。サークルの友人たちは、普段の生活の困りごと等も相談でき、心の支えになっている。	最近車を手放し、公共交通機関を利用するようになったが、足腰が弱っていることを感じる。買い物や病院通い、趣味のサークルへの移動などが負担に感じるようになってきた。	足腰がかなり弱り、一人での外出は困難になってきた。町内会での活動が張り合いになっているので、できる限り続けていきたい。	足腰がかなり弱り、一人暮らしのため日々の生活に困ることがある。ヘルパーさんに来てもらっているが、外出時の付き添い等の移動支援をしてほしい。

3. PEST分析

- 団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年の東京都の社会状況や高齢者像、提供される行政/民間サービスや社会参加促進策に影響しうる情報の収集と、特に影響が大きい要因を整理した。

Politics : 高齢者に関連する国の制度等

- 財政状況のひっ迫、社会保障給付の水準低下による高齢期の支出増
- 医療・介護分野の規制緩和の促進によるサービスの多様化
- 定年制度の延長・多様な働き方の環境整備

Society : 高齢者の就労や世帯構成等

- 高齢者の増加と高齢者世帯の単身化、要介護認定者・認知症患者数の増加
- 高齢者の就労、学習、健康増進への取組み意欲の高まり

※2040年における高齢者の居住地については、都心集中、郊外分散の双方の可能性がある

Economy : 高齢者の経済状況

- 貧困高齢者の増加（高齢者の母数の増加による）

※2040年における経済格差の状況については、拡大、縮小・維持の双方の可能性がある

Technology : 高齢者の生活に関連する技術

- 高齢者の移動と自由度の変化
- ロボットやAI,AR、VR等の空間拡張技術の活用

※2040年までの技術の進歩については、大きく飛躍するパターン、停滞するパターンの双方の可能性がある

※ 高齢者の経済格差、都心集中または郊外分散など高齢者の居住地（交通利便性）、技術の進歩の程度については、その変化・変動幅にかかる予見可能性が低く、複数のパターンが想定されるものの、有識者へのヒアリング結果を踏まえて、2040年に向けては甚大な影響が及ぶほどの変化は考えにくいと想定して、以降の検討の際に、社会状況による変動要因として考慮。

3. PEST分析

(1) Politics (高齢者に関連する国の制度等)

- 今後、財政状況のひっ迫に伴い、社会保障給付の水準低下による高齢期の支出が増加することが考えられる。
- また、医療・介護分野の規制緩和の促進、テクノロジーを活用した医療・介護の普及等により、日常生活の中での医療・介護サービスのあり方が多様化する可能性がある。
- 就労については、定年制度の延長・多様な働き方など就業しやすい環境の整備により、高齢者の就業機会は増加すると考えられる。

状況変化・高齢者への影響

	2025年	2030年	2040年	予見可能性	変化の規模
社会保障制度 全体概況	社会保障給付費は約140兆円となり、現時点から20兆円程増加。	社会保障給付費は約140兆円からさらに増加が見込まれ、財政状況は一層悪化。	社会保障費は約190兆円に。社会保障に係る財政状況がひっ迫し、年金・医療・介護の供給水準が下がる可能性。	高	大
年金制度	所得代替率は経済成長・労働参加が進むケースで現在の61.7%から60.9%に低下。	所得代替率は経済成長・労働参加が進むケースで58.9%に低下。	所得代替率は左記ケースで54.3%に低下。年金受給額の減少等により、従前と同水準の所得の確保が困難となる可能性。	高	中
医療・介護 保険財政	給付費の適正化のため、主に現役並み所得の後期高齢者の窓口自己負担割合が増加する。	高齢者については、自己負担割合だけでなく「現役並み」とする所得の判定基準等も見直される可能性。	自己負担割合の増加に伴う支出が増加し、健康づくりに対する意欲が増進される可能性。	高	中
医療 にかかる規制	診療報酬改定や医療機器に関する規制が緩和され、規制緩和により、テクノロジーを活用した医療等が普及し、在宅医療のインフラ整備・高度化が予想される。		高齢者が居住する地域や環境に関わらず、適切なタイミングでより効果的な医療を受けることができるようになる可能性。	中	中
介護 にかかる規制	介護現場、日常生活における高齢者のサポートのためのAI・ICTの活用が一層進む。多様なサービスが市場に展開され、高齢者の暮らし方も自由になると予想される。		日常生活の行動をサポートする介護サービスが多様化・高度化し、個人の身体機能に左右されない暮らし方になる可能性。	中	中
定年制度	雇用確保措置の拡大について検討されており、また多様な働き方が可能となるような制度面での就業環境が整備されていく見込み。		「現役時代」の年齢が延長され、健康な人はより長く就労を継続する。	高	中

3. PEST分析

(2) Economy (高齢者の経済状況)

- 今後、高所得の高齢者も低所得の高齢者もその絶対数は増えていくことが予想される一方で、現状の所得、支出、貯蓄、所得格差（ジニ係数）等の状況に加え、健康寿命の延伸や働き方の多様化も考慮すれば、高齢者全体に占める高所得高齢者と低所得高齢者の割合がどのように変化するか、また低所得高齢者の中でもそれぞれの所得の低さの程度がどのような状況になるのかについては一概に判断することはできない。
- このため2040年における高齢者の経済格差については、拡大の可能性もあり、また縮小・維持の可能性もある。

状況変化・高齢者への影響

	2025年	2030年	2040年	予見可能性	変化の規模	
高齢者の暮らし向き	年齢階層が高いほど「心配ない」と回答した割合は高く、直近のデータでは80歳以上で7割以上。	<p>高齢者数が増加することに伴い、貧困高齢者が増加することは予想される一方で、将来の個々人の経済状況については見通しがきかず、2040年における経済格差の状況については予見困難。</p>			中	中
高齢者の所得	直近データでは高齢者世帯の平均所得は318.6万円であり、その他世帯の半分以下。				中	中
高齢者の支出	直近データでは高齢者世帯の1月当たり平均支出は約25万円であり、その他世帯よりも6万円程度少ない。				中	中
高齢者の貯蓄	直近データでは、60歳以上世帯主の世帯・全世帯の貯蓄の中央値比較では、前者は後者の約1.5倍。				中	中
ジニ係数	30歳代以降、世帯主の年齢階層が上がるにつれ、ジニ係数が上昇。				中	中

3. PEST分析

(3) Society (高齢者の就労や世帯構成等暮らし方) のまとめ

- 東京都の高齢者人口、高齢化率はいずれも増加・上昇する見込み。単身化も進行していくことが予想される。また、平均寿命、健康寿命ともに延伸し、全体として高齢者の数が増えることから、高齢期においても就労や学習を望む者が絶対数としても増加することが見込まれる。
- 高齢者の交通利便性に関しては、自動車を保有しない高齢者が増加し、交通手段が限定され、特に公共交通機関が存在しない交通利便性の低い地域では移動が困難となる者が増加する可能性がある。
- 高齢者を取り巻く医療・介護の状況については、在宅ケアの推進等により、自宅で必要な医療・介護サービスを効率的に受けられるような環境となることが考えられる。

状況変化・高齢者への影響

	2025年	2030年	2040年	予見可能性	変化の規模
東京都の人口・世帯構成等	高齢者人口は約330万人、高齢化率は約23%に。高齢者世帯は約92万世帯といずれも増加。	高齢者人口は約340万人、高齢化率は約24%に。高齢者世帯は約97万世帯となる。	高齢者人口は約380万人、高齢化率は約28%に。単身高齢者世帯は約110万世帯となり、独り暮らし高齢者が一層増加する。	高	大
高齢者の就労等の活動状況	高齢者の就業率は過去10年間一貫して増加し、直近での就業継続意向も約8割であり、今後も就業意欲は高まることが予想。また、生涯学習についても半数以上の者が実施以降を示している。		高齢者の就業・学習意欲が高まり、何らかの活動を行う意向が強い者が増加する。	高	中
高齢者の健康状態	2020年以降、平均・健康寿命はそれぞれ2030年までに1歳程度延伸。一方、要介護認定者数は約730万人から約900万人にまで増加し、認知症患者数は約600万人から約800万人にまで増加する。		平均・健康寿命はさらに1歳延伸するが、他方で要介護認定者数は約990万人、認知症患者数は約950万人まで増加。	高	大
高齢者の居住地	現在、50代の者に比較的移住願望の強い者が多く、老後の一つの選択肢となっている。	移住願望の強い者が60～70代となり、郊外に分散する高齢者も存在する一方で、地方から都内に移住する高齢者が増加する可能性も考えられる。		中	中
医療・介護供給体制	介護人材は、2025年度末には約245万人が必要とされており、今後約55万人、年間6万人程度の介護人材を確保することが必要とされている。また、2025年見込の病床数は121.8万床となっており、2018年に比べ、2.8万床減少する見込み。こうした傾向は、2025年以降も継続すると予想される。		医療・介護サービスは在宅中心となり、これに伴うテクノロジーの活用等により、高齢者は効率的にケア受けられる環境となる可能性。	高	大

3. PEST分析

(4) Technology (高齢者の生活に関連する技術) のまとめ

- 2040年には、自動運転の普及や移動に関するナビゲーション技術の進歩により、高齢者の移動の自由度が高まっている可能性がある。また、ロボットやAI、AR、VR等の空間拡張技術が日常生活の中に溶け込み、高齢者の社会参加の仕方や社会参加の考え方が変化する可能性がある。
- 技術の進歩が進めば、どこにいても、遠く離れた場所にいる知人と円滑にコミュニケーションをとり、お互いが対面している中で共通のことに取り組むことができるような社会となっていることも考えられる。
- 一方で、こうした技術の進歩の程度やスピード、また社会実装に至るまでの具体的なプロセスについては、明確な根拠がなく、現段階では、大きく飛躍するパターン、停滞するパターンの双方の可能性が存在すると考えられる。

状況変化・高齢者への影響

	2025年	2030年	2040年	予見可能性	変化の規模
モビリティ関連	今後、仮に物流・移動サービスが進化すれば、①ルーティン移動の減少、②人・モノの移動の自由化・無人化などが実現する可能性。	自動運転の普及や移動に関するナビゲーション技術の進歩により、これまでであれば、外出や電車やバス停までの移動が困難であった高齢者も、ドアtoドアでの移動支援技術が確立することによって、身体状態に関わらず、自らが行きたい場所まで移動することが可能となる状況が想定される。		中	中
ロボット	現時点で、実験的なロボットが室内や屋外の歩行が可能に。今後は各種サービスにおける多様なロボットの活用が考えられる。	補助アーム・補助レッグ等を活用し、高齢になってもアウトドアの活動を楽しむことができたり、老老介護時の負担軽減が図られたりする可能性や、生活支援ロボットの普及により、高齢者の身のまわりの家事等の負担が軽減されている可能性がある。		中	中
AI	現時点では、認識能力やタスク遂行能力は人間レベルに到達。今後、各能力の発達が見込まれる。	自動翻訳の進化は高齢者にとっても、就労や海外旅行の際の利便性を高める可能性がある。		中	中
AR/VR等の空間拡張技術	近く、視聴者が自然な動きをしても立体像が変形しない立体動画表示が可能となるとされている。	AR/VR等の技術の進歩により、家族や友人・知人とのコミュニケーションの取り方が、より一層オンラインに重点が置かれるようになる可能性や、時空メガネのようなエンターテインメント系の用途も、高齢者に受け入れられる可能性がある。		中	中

4. 2040年のペルソナ作成

- 2020年のペルソナ仮案に、PEST分析や有識者インタビュー結果から導き出される社会環境の変動要因を反映させ、2040年のペルソナを作成した。
- 2040年のペルソナには、社会参加促進策の効果が発揮される前の状態（ビフォー）を記載するとともに、社会参加施策が実施され、その効果をそれぞれのペルソナが享受している姿（アフター）についても記載した。

項目名	ペルソナ設定の考え方		出所 (2040年)
	2020年(仮案)	2040年	
性別	男女半々として、男性：5、女性：5のペルソナを設定。	同左	—
年齢	社会参加の段階で設定した年齢幅に応じて設定	同左	—
世帯構成	2020年の都の高齢者世帯における世帯構成比を基に設定。内訳は単身：5、夫婦2人：3、夫婦と子ども同居：2、一人親と子ども同居：1とする。	2040年の都の高齢者世帯における世帯構成比を基に設定。※結果として内訳には変更なし。	東京都「東京都世帯数の予測」(2019年3月)
主な居場所	ウェブアンケート調査にて確認した「自宅以外で多くの時間を過ごす場所」のうち、コミュニティや居場所（他者との交流・帰属意識）となる場所について、各年代・性別での回答割合の多いものを抽出して記載。	2040年も2020年と同じ傾向が続くと改定し、各年代・性別での回答割合の多いものを抽出して記載。	実態把握調査
経済状態	ウェブアンケート調査にて、「暮らし向きの意識」を確認。その結果、60代の26.6%、70代の20.7%、80代以上の17.5%が生活や「やや苦しい」「大変苦しい」と回答していることから、経済的に厳しい状態のペルソナを2つ設定。	2020年の水準が維持されると仮定し、経済的に厳しい状態のペルソナを2つ設定。	実態把握調査、PEST分析、有識者インタビュー
心身機能の状態	心身機能の状態に応じたニーズをバランスよく把握する目的で、健康な状態のペルソナに加え、プレフレイル、フレイル、要支援、要介護のペルソナをそれぞれ1つずつ設定。	同左	東京都「知っておく！からはじめるー介護予防・フレイル予防ー」、国立長寿医療研究センター「改訂日本版CHS基準」
フレイル・要介護等状態の場合の詳細	プレフレイル、フレイル、要支援、要介護それぞれの状態像について記載。	同左	
交通の利便性	東京都における最寄駅までの距離は、200m未満：約10%、200～500m：約30%、500m～1km：約35%、1km以上：約25%でありこの割合を反映し設定。	2040年時点でも2020年と同じ状況と仮定し、この割合を反映し設定。	総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査」
日常の移動手段	ウェブアンケート調査にて確認した「よく利用する外出手段」を基に、年代性別に応じて設定。	ウェブアンケート調査にて確認した「よく利用する外出手段」を基に、年代性別に応じて設定。2040年時点での交通手段の変化についてはPEST分析やヒアリング調査を基に設定。	実態把握調査、PEST分析、有識者インタビュー
情報収集の主な手段	ウェブアンケート調査での「日常生活に関する情報源」に関する調査結果を基に、各世代の回答割合が多かったものを記載。	2040年の状態については、PEST分析での技術面の進歩や現在デジタル端末を日常的に使用する世代が高齢者になることを踏まえ記載。	実態把握調査、PEST分析
高齢期の社会参加を充実させるうえでの課題・ニーズ	2020年時点のアンケート結果から抽出した主要な課題・ニーズについて、各ペルソナの基本属性に合わせた内容に編集し記載。	2020年版の内容を基に、PEST分析を元に2040年の社会状況を反映して記載。	実態把握調査、PEST分析、有識者インタビュー
2040年までに実施する社会参加促進策	—	本報告書第5章に記す2040年までに実施する社会参加促進策（提言）のうち、それぞれのペルソナのニーズに対応する項目を記載。	—
2040年に実現を目指す社会参加の状態（例）	—	上記社会参加促進策が行われることで実現する、2040年の目指すべき社会参加の状態について、ペルソナごとの記す。	—

追加項目


4. 2040年のペルソナ作成

2040年のペルソナー覧


No.	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
ペルソナを一言で表すコピー	地域での活動に参加することを検討中の元シニア男性	家族と過ごす時間中心で、社会参加活動はしていないシニア女性	ボランティア活動に関心のある元気シニア女性	就労したいが年齢制限を心配するシニア男性	無理のない範囲での就労をしたいシニア女性	社会参加活動にあまり関心のないシニア男性	体力が衰えても趣味の活動を続けたいフレイルシニア女性	車を手放し移動支援が必要になったフレイルシニア男性	足腰が弱っても地域での活動を続けたい要支援シニア男性	自宅からオンラインで友人・知人との交流をする要介護シニア女性
性別	男性	女性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	男性	女性
年齢	65歳	67歳	70歳	70歳	73歳	74歳	78歳	80歳	84歳	87歳
世帯構成	夫婦・子と同居	夫婦	単身	単身	単身	単身	夫、子、孫と同居	夫婦	夫婦	単身
主な居場所	家	家	家、フィットネスクラブ、趣味の集まりや稽古の場	家	家、図書館	家、図書館	家、趣味の集まりや稽古の場	家、趣味の集まりや稽古の場	家、デイサービス・デイケア	家、老人クラブ・ふれあいサロン
経済状態				厳しい	厳しい					
心身機能の状態	健康	健康	健康	健康	健康	健康	プレフレイル	フレイル	要支援	要介護 1～2
フレイル・要介護等状態の場合の詳細	—	—	—	—	—	—	ひざや腰に痛みあり。長距離の歩行が徐々に辛くなってきている。	ひざや腰に痛みあり。定期的な運動はしておらず、筋力の低下を感じている。普段の生活の中でも、疲労感を感じるようになってきた。	妻からの勧めもあり、週1回は半日型のデイサービスを利用	軽度の認知症。週数回の訪問介護で何とか日常生活は継続できている。
交通の利便性	自宅は最寄駅から徒歩10分、バス路線豊富で交通至便	自宅は最寄駅から徒歩15分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩 5分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩10分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩 5分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩10分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩30分・自転車車で10分、バス路線少ない	自宅は最寄駅から徒歩20分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩15分、近隣にバス路線あり	自宅は最寄駅から徒歩10分、近隣にバス路線あり
日常の移動手段	買物や外出時には車を運転 特に不都合無し	電車を中心に、バスも時々利用 特に不都合無し	電車を中心に、バスも時々利用 特に不都合無し 70歳になったので、シルバーバス取得	電車を中心に、バスも時々利用 特に不都合無し	電車を主に利用している。駅から離れた場所へ行く時はバス利用 シルバーバスを大いに活用	電車を中心に、バスも時々利用 公共交通機関を利用する機会は限られるのでシルバーバスは利用していない。	買物や病院に行く時はバスが頼り。バスの本数が少ないのが悩み シルバーバスを大いに活用	電車を中心に、バスも時々利用 駅やバスの停留所から長時間歩くのはしんどいと感じる シルバーバスを活用している	外出時はバスが頼りだが、最近では出歩く機会が減った。 買物等は妻に任せている。 シルバーバスはめったに使っていない	外出時は電車やバスが頼りだが、最近では外出の機会が減った。 シルバーバスはめったに使っていない。
	必要に応じて、電車、バス、車を使い分け。 2040年時点では、自動運転車のシェアリング、MAASの普及等により、移動の利便性が向上。						従来の公共交通機関に加え、住宅地と最寄り駅等を結ぶコミュニティバス（自動運転の可能性あり）が普及し、家の近くの地域の拠点（公民館、図書館、公園、スーパー等）への移動に利用可能。ただし、ドアtoドアの移動支援の普及は限定的で、最寄りの停留所までは徒歩へ移動する必要がある。			
情報収集の主な手段	デジタル端末上での情報収集が一層普及。 新聞・テレビなどの従来からのメディアも活用（若年層よりも、より上の年代でよく利用される傾向にあると考えられる。） 2020年に普及しているスマートフォンとは異なるデジタルデバイスが主流となっている可能性もある。									
高齢期の社会参加を充実させるうえでの課題・ニーズ	70歳定年まであと5年となり、時間に余裕が出てきた。以前から頼まれていた、町内会の役員を引き受けようかと思っている。話を聞くとずいぶんアナログなようで、普段の仕事とのギャップを感じる。区の生涯学習講座にも興味があるが、もし参加するのであれば、どんな雰囲気が集まりか、事前に確認してから入りたい。	親の介護が終わり、娘に頼まれると孫の世話をすることはあるが、基本的には夫婦二人の生活。静かな生活でよいが、もう少し家族以外との関りがあった方が張り合いも出るかもしれないと思いつ、家事をしながら日々を過ごしている時間過ぎて行き、特に何もしていない。	年上の知り合いを見ていると、年齢を重ねると色々な支え合いや手助けが必要だと思う。体が動くうちは、何か人の役に立つことをしておきたい。認知症高齢者との接し方など、少し勉強してから、ボランティア活動ができないだろうか。	暮らし向きが苦しく、就労したい。これまでの経験を活かした仕事につきたいが、一度退職してしまうと年齢制限で応募できないものが多く困っている。	生活のため、また自分の張り合いのためにも働きたい。ただ、体力・体調に不安があるので、無理なくできるものがよい。	勤め先を退職してからは、特にこれといったことはしていない。自治会のイベントに参加したこともあるが、継続して特定のコミュニティに所属している訳ではない。散歩をしたり、図書館に行ったりマイペースに暮らしている。	体調や体力に不安があっても、これまで続けてきた趣味のサークルを続けたい。サークルの友人たちには、普段の生活の困りごと等も相談でき、心の支えになっている。	最近車を手放し、公共交通機関を利用するようになったが、足腰が弱っていることを感じる。買い物や病院通い、趣味のサークルへの移動などが負担に感じるようになってきた。	足腰がかなり弱り、一人での外出は困難になってきた。町内会での活動が張り合いになっているので、できる限り続けていきたい。	足腰がかなり弱り、一人暮らしのためヘルパーさんの付き添いを受けられる時以外は在宅で過ごすことが多くなった。社会とのつながりが減り、孤独を感じることもある。
2040年までに実施する社会参加促進策	【施策3-①】選層式など高齢者の社会参加を促す場づくり 【施策6-①】デジタル機器・社会参加活動アプリ導入支援	【施策2-①】マッチング機能の充実 【施策4-①】リアルでの交流の場づくり（自然と立ち寄る街中空間の創出） 【施策4-②】リアルでの交流の場づくり（魅力的な居場所の創出）	【施策2-①】マッチング機能の充実 【施策2-②】疑似的な報酬付与の仕組み 【施策2-③】オンラインでのボランティア活動の実施支援 【施策3-②】AR/VR等を活用した自己啓発・趣味活動の充実	【施策1-①】マッチング機能の充実 【施策1-④】高齢者の新たな就業機会の創出	【施策1-①】マッチング機能の充実 【施策1-③】能力に応じて就労できる環境の整備	【施策1-①】マッチング機能の充実 【施策4-①】リアルでの交流の場づくり（自然と立ち寄る街中空間の創出） 【施策4-②】リアルでの交流の場づくり（魅力的な居場所の創出）	【施策3-②】AR/VR等を活用した自己啓発・趣味活動の充実 【施策4-③】オンラインでの交流の場づくり 【施策6-①】デジタル機器・社会参加活動アプリ導入支援	【施策3-②】AR/VR等を活用した自己啓発・趣味活動の充実 【施策5-①】シニア向け移動助付きオンデマンドバス	【施策4-①】リアルでの交流の場づくり（自然と立ち寄る街中空間の創出） 【施策4-②】リアルでの交流の場づくり（魅力的な居場所の創出） 【施策5-①】シニア向け移動助付きオンデマンドバス	【施策4-③】オンラインでの交流の場づくり 【施策6-①】デジタル機器・社会参加活動アプリ導入支援
上記社会参加促進策の結果実現する、社会参加の状態	70歳定年まであと5年となり、時間に余裕が出てきた。以前から頼まれていた、町内会の役員を引き受けようかと思っている。話を聞くと、事務的な仕事はオンラインで完了するようなので、地域の人と直接コミュニケーションが取れる地域の集まりを大切にしていきたい。以前参加した選層式で面白そうな趣味のサークルを見つけて気になっていたが、この前話をした自治会の人メンバーに入っている人がいるようなので、今度様子を聞いてみようと思う。	親の介護も終わり、夫婦二人で静かに暮らしている。なんだか張り合いがないので、家族以外と接する機会があってもよいと感じている。行政のボランティアマッチングプラットフォームに登録しておいたら、家の近所の子ども食堂でのボランティア募集情報が届いた。そういえば、その子ども食堂は、高齢者も出入りしていて、楽しそうな声が聞こえている。昼間はコミュニティカフェになってこの前行ってみたい。以前参加した選層式で面白そうな趣味のサークルを見つけて気になっていたが、この前話をした自治会の人メンバーに入っている人がいるようなので、今度様子を聞いてみようと思う。	最近では介護が必要な人もなかなか施設に入れないと聞いて、他人事ではないと思っている。最近では介護施設での有償ボランティアも増えており、体が動くうちは何か役に立つことをしておこうかと思っている。介護施設に問い合わせたら、認知症高齢者との接し方の講座を案内されたので、今度区民センターに受けに行こうと思っている。	70歳で退職した後、仕事をどう見つけたらよいかと不安だったが、行政のマッチングプラットフォームに登録したところ、シニア歓迎かつ在宅でできる仕事の案内が届いた。週に2～3日で無理なく働ける仕事を始めたい。	生活のため、また自分の張り合いのためにも働きたい。行政のマッチングプラットフォームに登録したところ、シニア歓迎かつ在宅でできる仕事の案内が届いた。週に2～3日で無理なく働ける仕事を始めたい。	勤め先を退職してからは、特にこれといったことはしていない。地域の団体に入るのは、何となく煩わしいと思ってしまうが、この前駅前広場のベンチに座っていたら移動販売をしていた人に話しかけられた。飲み物を飲みながら世間話をしたら気晴らしになった。週に1回来ているようなので、また行ってみようかと思う。	最近体調や体力に不安が出てきた。80歳になったら、昔登録した東京都のマッチングプラットフォームから、介護予防のための運動講座の案内が届いた。オンラインでも参加できるというので試してみようと思う。体力を維持しながら、趣味のサークル活動を続けたい。	最近車を手放し、公共交通機関を利用するようになったが、足腰が弱っていることを感じる。買い物や病院通いは、シニア向けの安価なコミュニティバスが利用できるのだから、オンラインばかりではますます体力が落ちるので、家のすぐそばから乗れるコミュニティバスを利用して、夫婦で買い物等外出するよう心掛けていく。家のすぐそばの公園にもよく行っている。ベンチも整備されほどよき活気があり、居心地がよい空間となっている。	足腰がかなり弱り、一人での外出は困難になってきた。町内会でも同じように外出が難しい人も増えてきたので、オンラインも併用してイベントや会合を行っている。ただ、オンラインばかりではますます体力が落ちるので、家のすぐそばから乗れるコミュニティバスを利用して、夫婦で買い物等外出するよう心掛けていく。家のすぐそばの公園にもよく行っている。ベンチも整備されほどよき活気があり、居心地がよい空間となっている。	足腰がかなり弱り、一人暮らしのためヘルパーさんの付き添いを受けられる時以外は在宅で過ごすことが多くなった。老人クラブの集まりには、体調によってはオンラインで参加している。ヘッドセットをつけるとその場に参加しているような臨場感があって、交流を楽しんでいる。一日家に閉じこもっていると気持ちが塞ぐこともあるが、オンラインで話し相手を見つかけられるのはよい気晴らしになっている。

4. 2040年のペルソナ作成

【ペルソナ①】 地域での活動に参加することを検討中の元気シニア男性

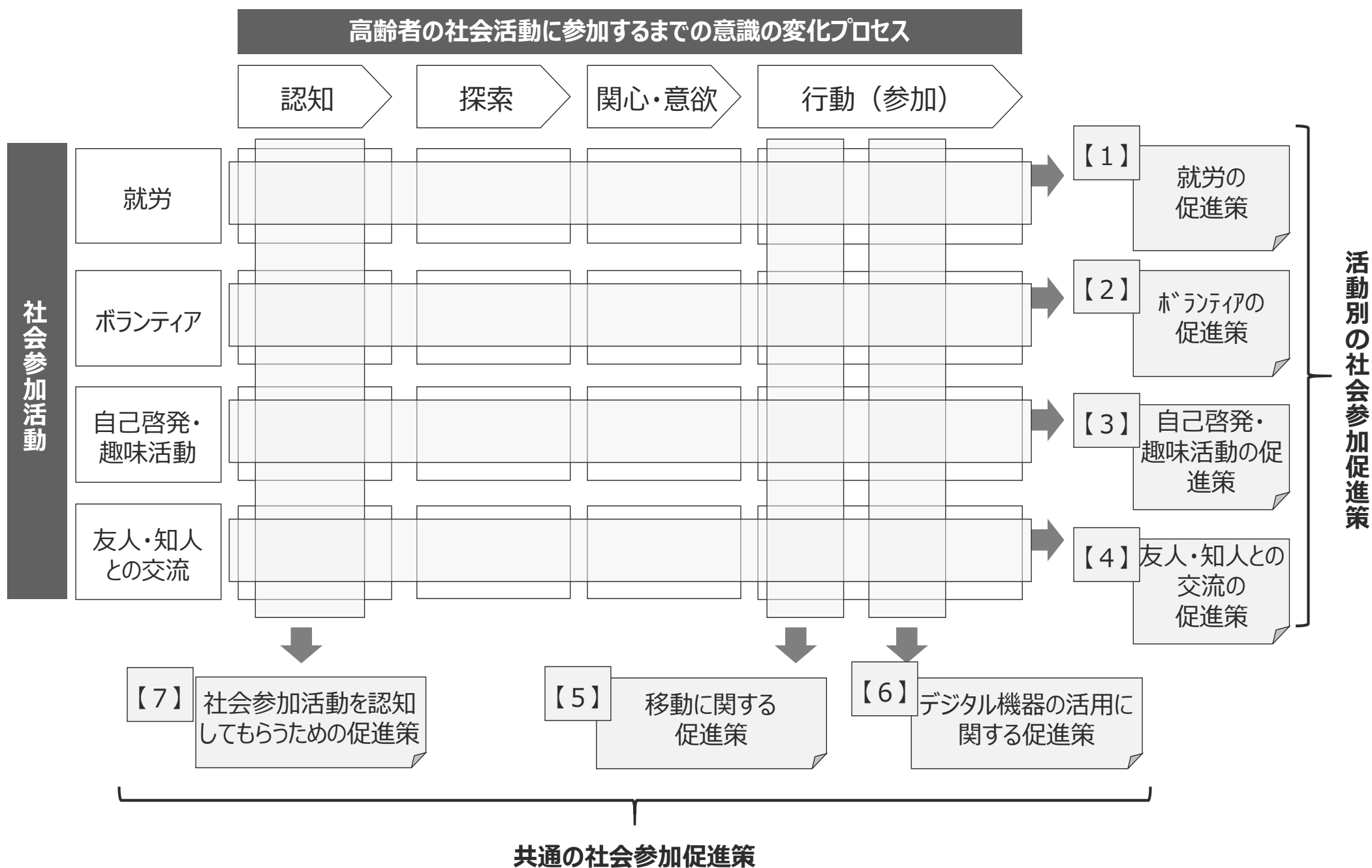
ビジュアルイメージ		基本属性	
		性別	男性
		年齢	65 歳
		世帯構成	夫婦・子と同居
		主な居場所	家
		経済状態	ふつう
心身機能の状態			
心身機能の状態	健康		
交通の利便性・日常の移動手段・情報の主な手段			
交通の利便性	自宅是最寄駅から徒歩 10 分、バス路線豊富で交通至便		
日常の移動手段	買物や外出時には車を運転。必要に応じて、電車、バス、車を使い分け。自動運転車のシェアリング、MaaS の普及等により、移動の利便性が向上。		
情報収集の主な手段	デジタル端末上での情報収集が一層普及。新聞・テレビなどの従来からのメディアも活用。2020 年に普及しているスマートフォンとは異なるデジタルデバイスが主流となっている可能性もある。		
社会参加に関する状況等			
高齢期の社会参加を充実させる上での課題・ニーズ	70 歳定年まであと 5 年となり、時間に余裕が出てきた。以前から頼まれていた、町内会の役員を引き受けようか思っている。話を聞くとずいぶんアナログなようで、普段の仕事とのギャップを感じる。 区の生涯学習講座にも興味があるが、もし参加するのであれば、どんな雰囲気集まりか、事前に確認してから入りたい。		
2040 年までに実施する社会参加促進策	【施策 3-①】還暦式など高齢者の社会参加を促す場づくり 【施策 6-①】デジタル機器・社会参加活動アプリ導入支援（高齢者のデジタルデバイス解消策） 【施策 6-②】高齢者が使いやすいデジタル機器開発のための助成金		
2040 年に実現を目指す社会参加の状態（例）	70 歳定年まであと 5 年となり、時間に余裕が出てきた。以前から頼まれていた、町内会の役員を引き受けようか思っている。話を聞くと、事務的な仕事はオンラインで完結するので、地域の人と直接コミュニケーションが取れる地域の集まりを大切にしていきたい。 以前参加した還暦式で面白そうな趣味のサークルを見つけて気になっていたが、この前話をした自治会の人々がメンバーに入っている人がいるようなので、今度様子を聞いてみようと思う。		

【ペルソナ②】 家族と過ごす時間中心で、社会参加活動はしていないシニア女性

ビジュアルイメージ		基本属性	
		性別	女性
		年齢	67 歳
		世帯構成	夫婦
		主な居場所	家
		経済状態	ふつう
心身機能の状態			
心身機能の状態	健康		
交通の利便性・日常の移動手段・情報の主な手段			
交通の利便性	自宅是最寄駅から徒歩 15 分、近隣にバス路線あり		
日常の移動手段	電車を中心に、バスも時々利用。自動運転車のシェアリング、MaaS の普及等により、移動の利便性が向上。		
情報収集の主な手段	デジタル端末上での情報収集が一層普及。新聞・テレビなどの従来からのメディアも活用。2020 年に普及しているスマートフォンとは異なるデジタルデバイスが主流となっている可能性もある。		
社会参加に関する状況等			
高齢期の社会参加を充実させる上での課題・ニーズ	親の介護が終わり、娘に頼まれると孫の世話をすることはあるが、基本的には夫婦二人の生活。静かな生活でよいが、もう少し家族以外との関りがあつた方が張り合いも出るかもしれないと思いつつ、家事をしながら日々を過ごしていると時間が過ぎて行き、特に何もしていない。		
2040 年までに実施する社会参加促進策	【施策 2-①】マッチング機能の充実（ボランティア参加意向のある人と募集団体を効果的につなぐ） 【施策 4-①】リアルでの交流の場づくり（自然と立ち寄る街中空間の創出） 【施策 4-②】リアルでの交流の場づくり（魅力的な居場所の創出）		
2040 年に実現を目指す社会参加の状態（例）	親の介護も終わり、夫婦二人で静かに暮らしている。なんだか張り合いがないので、家族以外と接する機会があってもよいと感じている。行政のボランティアマッチングプラットフォームに登録しておいたら、家の近所の子ども食堂でのボランティア募集情報が届いた。そういえば、その子ども食堂は、高齢者も出入りしていて、楽しそうな声が聞こえている。昼間はコミュニティカフェになっていてこの前行ってみたら、雰囲気よかった。来週のボランティア体験会に参加してみようと思う。		

5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

- 就労、ボランティア、自己啓発、友人・知人との交流の4つの活動を対象として、社会参加促進策を検討した。
- 【活動別】社会参加活動を認知してから参加するまでの意識の変化のプロセス（認知、探索、関心・意欲、行動）に着目して、活動別の社会参加促進策を検討した。
- 【共通】高齢者に社会参加活動を認知してもらうための促進策と、移動支援とデジタル機器の活用支援については、すべての社会参加活動共通の社会参加促進策として検討を行った。



5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

- 複数の社会参加活動に参加しながら、身体機能や認知機能といった生活機能（＝健康度）の状況に応じて、シームレスに参加する社会参加活動を変えていくことから、7つの分類の社会参加促進策を個別に進めていくのではなく、施策を一体化して推進していくことで、それぞれの施策の価値も高まると考えられる。

活動別

就労

【1】-①
マッチング機能の充実

働きたい高齢者
企業
マッチング

【1】-②
リカレント教育付き
転職支援

学校でのリカレント教育
オンライン教育

【1】-③
能力に応じて就労できる
環境の整備

(例) 車椅子の方の就労
(例) 在宅勤務

【1】-④
高齢者の新たな
就業機会の創出

生き生き高齢者
優良企業認定

自己啓発・
趣味活動

【3】-①
還暦式など高齢者の社会参
加を促す場づくり

町内会
社会参加活動の紹介

【3】-②
AR/VR等を活用した自己啓
発・趣味活動の充実

AR/VR等による魅力的なコンテンツ

ボランティア

【2】-①
疑似的な報酬付与の仕組み

ポイント
付与

【2】-②
マッチング機能の充実

ボランティアしたい人
ボランティアを利用したい人
マッチング

【2】-③
オンラインでのボランティア活動
の実施支援

自宅から
ボランティア活動に参加
(例) 高齢者の話し相手

友人・知人との
交流

【4】-①
リアルでの交流の場づくり
(自然と立ち寄る街中空間
の創出)

立ち寄りたくなる場所

【4】-②
リアルでの交流の場づくり
(魅力的な居場所の創出)

子ども食堂
地域交流
イベント

【4】-③
オンラインでの交流の場づくり

オンラインでのつながり

共通

移動

【5】-①
シニア向け移動介助付きオンデマンドバス

オンデマンド
バス
時刻・ルート最適化
時刻表管理
移動介助
検索・予約・決済
一元管理

デジタル機器の活用

【6】-①
デジタル機器・社会参加活動
アプリ導入支援

デジタル機器活用の研修

【6】-②
高齢者が使いやすいデジタル
機器開発のための助成金

開発支援

社会参加活動の認知

【7】-①
情報発信・情報共有ができるプラットフォーム

安心安全
情報発信
おすすめ
紹介
個別相談
情報発信・情報共有のプラットフォーム
ポータル
サイト
各施策のサイト
高齢者のDB
社会参加活動と
促進策のDB

5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

- 社会参加促進策の各分類で検討した個別施策の一覧は以下のとおりである。
- 前述した社会参加促進策の検討の視点で整理するとともに、それぞれの社会参加促進策に係る高齢者の抱える課題とそれに対する個別施策を整理した。

社会参加促進策	社会参加促進策が必要となる背景・社会参加に係る高齢者の抱える課題 (※2020年の高齢者の社会参加に係る課題を基に、PEST分析の結果を踏まえて、2040年の高齢者の課題を作成した。)	個別施策
【1】 就労の促進策	<ul style="list-style-type: none"> • 就労意向のある人に希望に合致する情報を提供し、就労を後押しするマッチング機能の充実が課題である。個人の希望や能力に応じた就労に関する情報提供や仕事(企業)と個人のよりきめ細かいマッチングが行われる必要がある。 • 就労意向を有するものの、身体状態等を理由として就労を諦めている方が一定数存在する。テクノロジーを活用し、身体機能や認知機能が低下しても、就労可能となる環境の整備が求められる。 • 就業(希望)者への支援のみならず、企業側の環境整備も必要である。高齢者の「働きたい」「役に立ちたい」気持ちを生かす就業機会の創出を企業と連携して行い、短時間勤務、在宅勤務(オンライン)等、就業者側の希望に応じた就労環境の整備、仕事の創出が課題である。 	【1】-① マッチング機能の充実 【1】-② リカレント教育付き転職支援 【1】-③ 能力に応じて就労できる環境の整備 【1】-④ 高齢者の新たな就業機会の創出
【2】 ボランティアの促進策	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアへの参加意向のある人の希望に合致する情報を提供し、必要に応じて体験などの機会を提供することで、活動開始を後押しすることが重要である。これまでボランティア募集者と、希望者双方のニーズをくみ取りマッチングすることは難しかったが、利用者にとっては登録しやすく、募集団体にとっても活用しやすいマッチングのプラットフォームを構築することを目指す。 • 「有償ボランティア」として何らかの報酬が受け取れるボランティアについても、市民のニーズが高く、現在のボランティアポイント制度を拡充させ、これまでボランティアに関心のなかった層も含めて、ボランティアへの参加を増やしていくことを目指す。 • コロナ禍で在宅勤務やオンライン会議が普及しているが、ボランティアの分野においても、在宅から、あるいは体調に不安があっても参加できる仕組みとして、オンラインでの活動支援のニーズに応えていくことを目指す。 	【2】-① マッチング機能の充実 【2】-② 疑似的な報酬付与の仕組み 【2】-③ オンラインでのボランティア活動の実施支援

5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

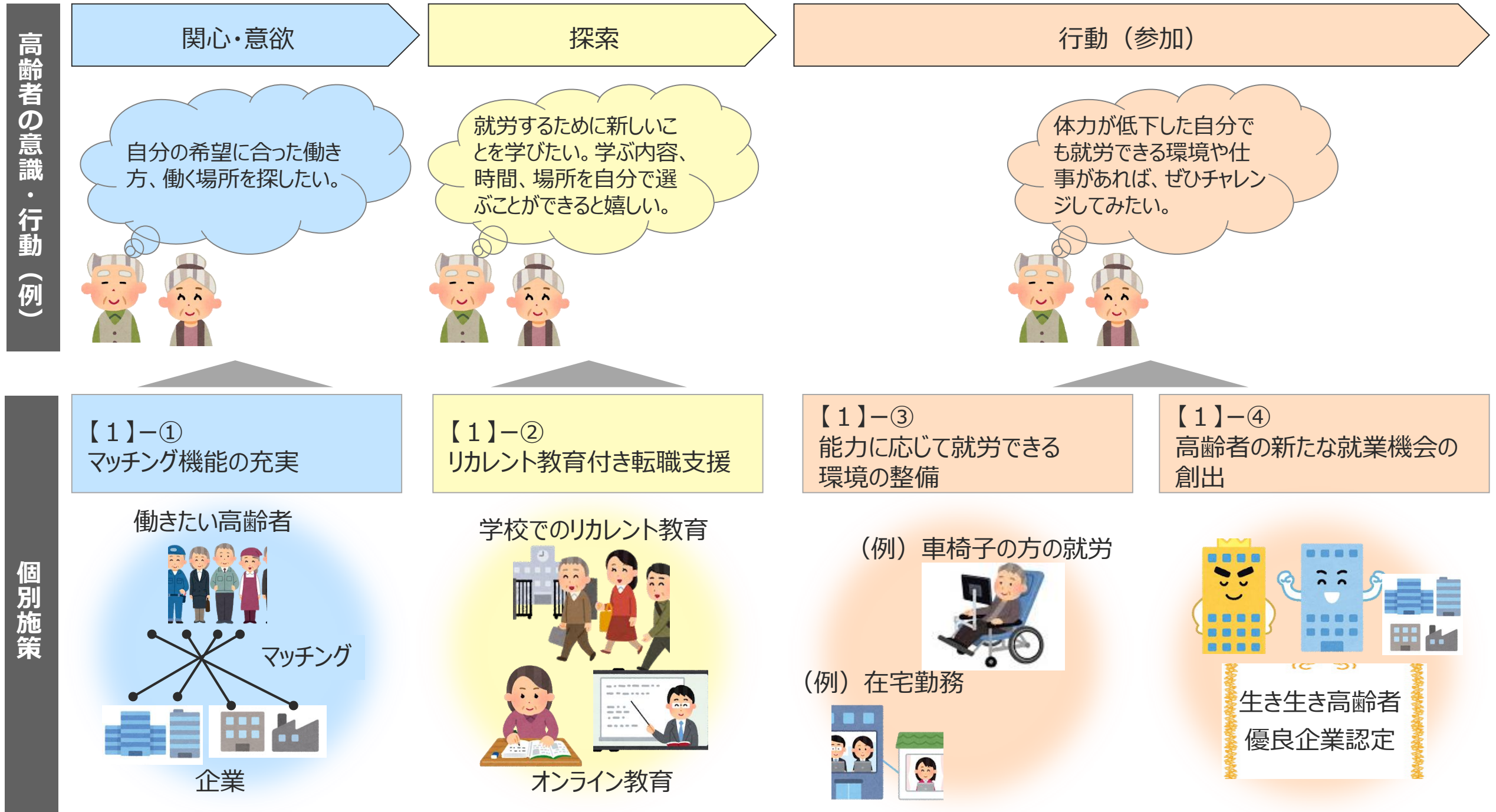
社会参加促進策	社会参加促進策が必要となる背景・社会参加に係る高齢者の抱える課題 (※2020年の高齢者の社会参加に係る課題を基に、PEST分析の結果を踏まえて、2040年の高齢者の課題を作成した。)	個別施策
【3】 自己啓発・趣味活動の促進策	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期における自己啓発・趣味活動への参加にあたっては、本人が広く社会に存在する既存の活動メニューを知ることから始まるが、これまでのように高齢者が能動的に情報を取得しなければならない状況では、個々の高齢者の積極性に大きく依存し、結果として情報を取得できる者及び個々の高齢者が取得できる情報の量は限られたものとなる。このため、今後は他者から時宜を得て情報が提供される環境を整備することが望ましく、すべての人が一定年齢を迎えた際、一律に行政から社会参加に関する情報提供を提供する仕組みづくりが求められる。 また、実際に活動に参加することに躊躇する高齢者も存在すると考えられるため、情報取得後から参加に至るまでのハードルを下げる観点から、個々人の趣味趣向に沿った自己啓発・趣味活動メニューのマッチングや実際の活動の疑似体験などにより、活動に参加しやすくなるような環境整備が必要となる。 さらに、健康状態や身体機能を問わず自己啓発・趣味活動に参加できる環境整備や、よりリアルな体験を可能とするなど、オンラインも活用しつつこうした取組を進めることで、実際の参加への移行を促すことが課題である。 	<p>【3】－① 還暦式など高齢者の社会参加を促す場づくり</p> <p>【3】－② AR/VR等を活用した自己啓発・趣味活動の充実</p>
【4】 友人・知人との交流の促進策	<ul style="list-style-type: none"> 他者との交流を促すためには、まずは人が集まり自然と会話が生じる現実の場を創出することが必要である。その際、目的の有無にかかわらず、またストレスなく集うことができることが重要であることから、例えば街中や道路に休憩スペースやアート空間を設置するなどの空間的な工夫により、本人の意図しない形でも他者との交流機会を増やすことが必要である。 併せて、外出のための小さな目的づくり・きっかけづくりとして例えば子ども食堂の高齢者版のような形で食事を中心とした集まりの場を設けることで、能動的な外出へとつなげていくことが求められる。 さらに、他者との交流を促すためには、オンラインによる交流の場を創出することも必要である。外出に要する労力の軽減や、身体機能の低下等により外出が困難な者へのフォローとして必要であり、また、オンラインによって、通常は時間帯や場所の都合により共有できない日常生活の多くの部分を共有すること、共有できる友人・知人の範囲が広がる可能性がある。このため、オンライン上に交流プラットフォームに設置し、AI等も活用することでさまざまな者とさまざまな話題を共有しつつ、コミュニケーションを取れる場を創出することが今後の課題である。 	<p>【4】－① リアルでの交流の場づくり (自然と立ち寄る街中空間の創出)</p> <p>【4】－② リアルでの交流の場づくり (魅力的な居場所の創出)</p> <p>【4】－③ オンラインでの交流の場づくり</p>

5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

社会参加促進策	社会参加促進策が必要となる背景・社会参加に係る高齢者の抱える課題 (※2020年の高齢者の社会参加に係る課題を基に、PEST分析の結果を踏まえて、2040年の高齢者の課題を作成した。)	個別施策
【5】 移動に関する促進策	<ul style="list-style-type: none"> 移動に関連する高齢者の課題は多岐に渡るため、高齢者にさまざまな移動支援の選択肢を提供することが重要である。例えば、公共交通機関の交通網から外れている、最寄りのバス停や駅まで、高齢者が歩く場合には距離的に難しい、バスの運行頻度が少ない、複数の交通機関の乗り換えが困難など、高齢者の居住地域や目的によって、必要な支援策が異なっている。 そこで、高齢者の要望に合わせて時刻やルート設計を行ったオンデマンドバスの運行を行うことが必要であると考えられる。 また、最適化されたルート設計であっても、自宅前までの送迎が難しいことが想定されるため、自宅から最寄りのバス停までは、ボランティアによる移動介助の支援をできるようにすることも課題である。 さらに、これらの高齢者がオンデマンドバスを利用したい時刻や乗降場所を入力するための、検索・予約・決済等の情報は、共通のアプリケーションを作り、高齢者が使いやすいものにすることが必要となる。 	【5】-① シニア向け移動介助付きオンデマンドバス
【6】 デジタル機器の活用に関する促進策	<ul style="list-style-type: none"> デジタル機器の「使い方」の支援を充実させていくことが課題である。 2040年の高齢者は、現在よりもデジタル機器に対するリテラシーは高くなっていると考えられることから、より高度なテーマも研修・講習会として実施していく必要がある。デジタル機器やアプリケーションの使い方についてのオンラインや対面の個別相談会を実施し、デジタル機器を利用した社会参加活動を促進していくことが求められる。 高齢者が操作しやすいデジタル機器やアプリケーションの開発を行う企業に対する助成金制度を設け、高齢者が使いこなせるデジタル機器を整備していくことも求められる。 	【6】-① デジタル機器・社会参加活動アプリ導入支援 【6】-② 高齢者が使いやすいデジタル機器開発のための助成金
【7】 社会参加活動を認知してもらうための促進策	<ul style="list-style-type: none"> 他の社会参加促進策を高齢者に認知してもらい、高齢者がより積極的に社会参加活動に参加してもらうために、それぞれの分野の施策を個別に高齢者に訴求するのではなく、東京都の共通の施策として、高齢者が安心して利用できる社会参加活動の情報発信、双方で情報共有できるプラットフォームを構築することが課題である。 具体的には、高齢者に社会参加活動の情報を一元的に取得できるポータルサイトとして活用してもらうだけでなく、社会参加活動に係る多様なニーズを有する高齢者に対して、個々人の属性や興味・関心のある社会参加活動のデータベースを基に、おすすめの社会参加活動や活用できる社会参加促進策を提示することが求められる。 その上で、高齢者のお悩みに対応するために、音声やメールなどを介して、プラットフォーム上で相談できる問合せ窓口を設け、高齢者が安心して利用できる仕組みが必要である。 	【7】-① 情報発信・相互共有のプラットフォーム

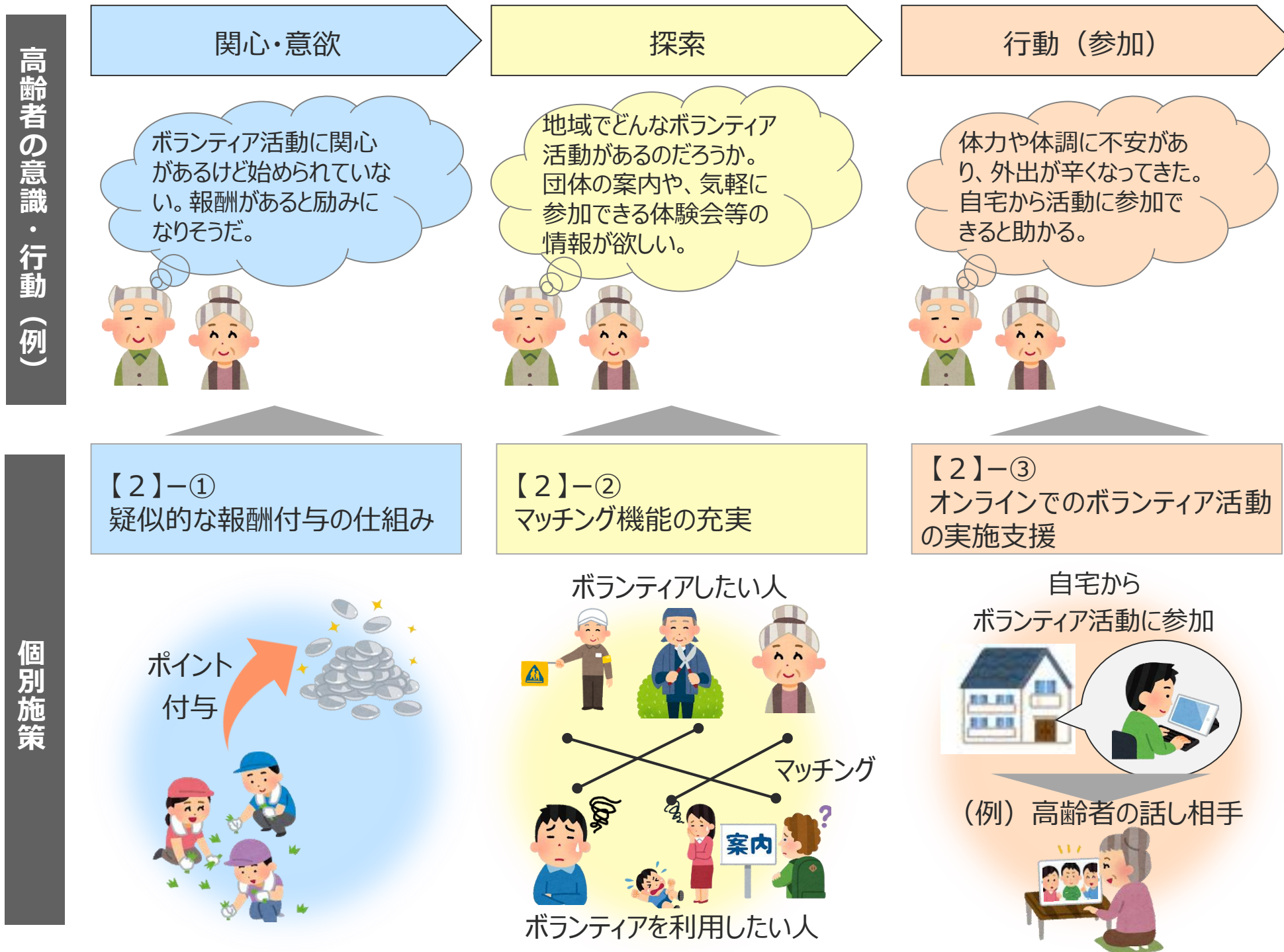
5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) 就労促進の施策イメージ



5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) ボランティア促進の施策イメージ



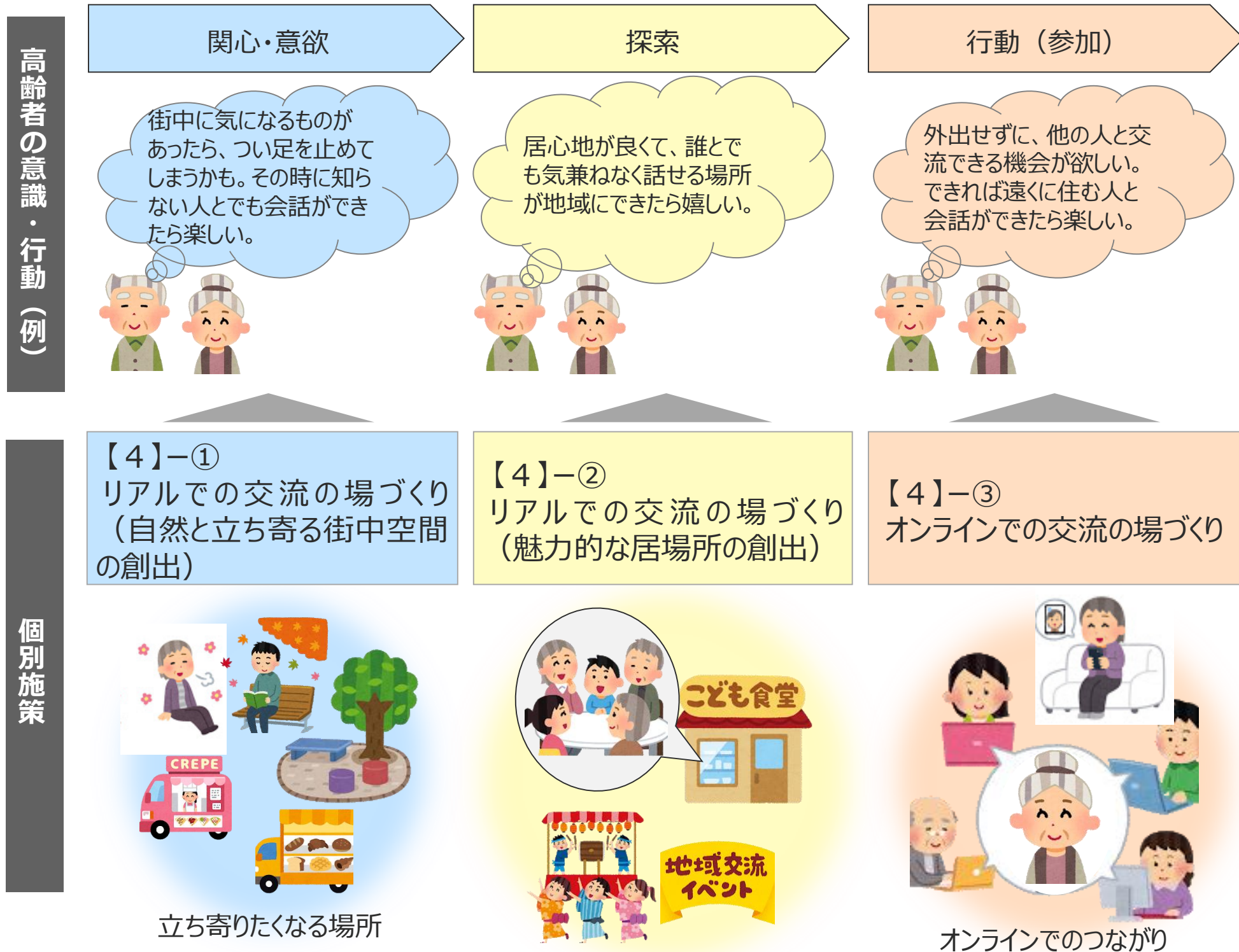
5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) 自己啓発・趣味活動促進の施策イメージ



5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) 友人・知人との交流促進の施策イメージ



5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) 移動に関する促進の施策イメージ



5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) デジタル機器の活用に関する促進の施策イメージ



5. 社会参加促進策の詳細化と体系化

(例) 社会参加活動を認知してもらうための促進策イメージ

